5　補剤併用による難治性皮膚疾患の治療

○小林　裕美、石井　正光、寺嶋　亨、水野　信之、
（大阪市立大学医学部皮膚科）、
高橋　邦明（大東・高橋皮膚科）、
山本　巖（大阪・山本内科）

［目的］補中益気湯をはじめとするいわゆる補剤は、諸臓器の機能を改善し生体防御能を高める薬剤として近年、各診療科で注目を集めている。アトピー性皮膚炎治療における本剤併用の効果について、私達は1989年の論文をはじめとし長期にわたり検討を加え、その有用性を昨年の本会において報告した。補剤は本治を目的に使用するため、アトピー性皮膚炎以外の難治性皮膚疾患にも有用な例は少なくない。皮膚科領域における本剤の作用を明らかにするため有用例について症状、臨床検査値の推移を検討した。

［症例］症例1：61歳、男性。糖尿病を合併した10年来の乾癬。二次感染を起こしやすくその度に乾癬が増悪。駆瘀血剤のみでの治療には抵抗したが、補中益気湯併用開始2週間目以降、皮疹、便秘ともに改善傾向を示し、2ヶ月後には殆どの皮疹が消失した。症例2：32歳、男性。20年以上にわたるアトピー性皮膚炎。紅皮症状態で来院。虚脱感、精神的ストレスの訴えがあり、補中益気湯、黄連解毒湯、五苓散などの内服を西洋医学的治療に加えたところ、1ヶ月後にはかなり改善し1年後には好酸球数も正常に復した。症例3：63歳、女性。慢性蕁麻疹。パモ酸ヒドロキシジンのみでは軽快せず、体調不良の際はクインケ浮腫を伴うため、補中益気湯を併用した。1週間後にはクインケ浮腫は治癒し、蕁麻疹もかなり軽快、初診時800.8U/mlであったIgEも3ヶ月後には464 U/mlに減少していた。

［考察］症例1,2は二次感染を起こしやすく、症例3は感冒に罹患しやすいという易感染性が認められ、西洋医学的治療のみでは、再発防止は困難であった。本剤内服によりこれらの症状の再発はいずれも抑制され免疫機能に対する調整的作用によるものと考えられた。また、好酸球数やIgE値などの検査成績の改善および元気の回復といった自覚症状の改善も認められた。

［結論］難治性皮膚疾患で易感染性等の免疫機能異常を伴う例の中に、補剤併用治療が有用な一群が存在する。